

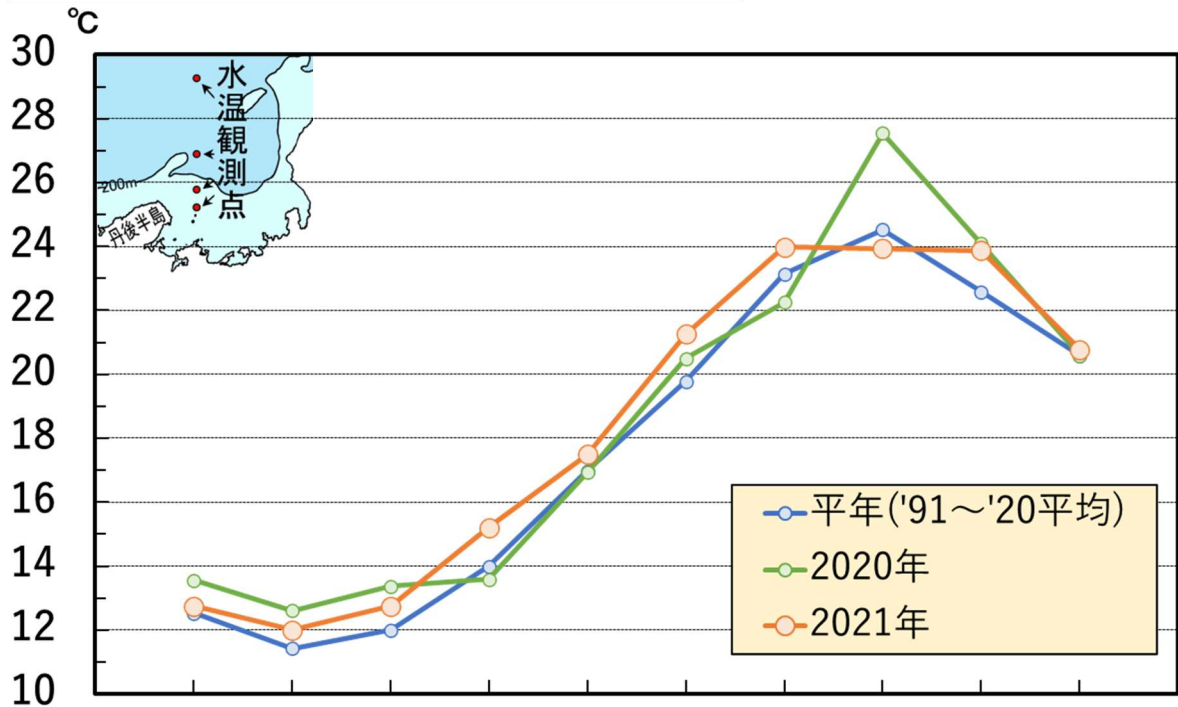
京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 研究部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況 ～2021年1月から12月まで～

表層の水温は、3～7月にかけて平年よりやや高め～はなはだ高め、8～11月は平年並み～やや高めで推移した。

京都府沖の表層水温（0～50 m 深平均）



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

単位：℃	水温	平年差	評定
1月			観測なし
2月	12.7		データ過少につき評定なし
3月	12.0	+0.6	やや高め
4月	12.8	+0.8	やや高め
5月	15.2	+1.2	はなはだ高め
6月	17.5	+0.5	やや高め
7月	21.3	+1.5	はなはだ高め
8月	24.0	+0.9	やや高め
9月	23.9	-0.6	平年並み
10月	23.9	+1.3	やや高め
11月	20.8	+0.2	平年並み
12月			観測なし

≪漁模様 2021年1月から12月まで≫

【定置網漁業】

サバ類が平年の2.6倍（前年の1.9倍）、スズキが平年の1.4倍（前年の1.2倍）と好調でした。一方、ブリは平年の6割（前年の7割弱）、マアジが平年の4割強（前年の9割弱）と低調でした。全体では、平年並み（前年の9割弱）でした。

年間漁獲量（上位10魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2021年	2020年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ(たれ)	2058.0	3442.7 (60%)	2263.8 (91%)	<サワラ銘柄別> さわら大(3kg以上): 117.8トン さわら(2-3kg): 328.2トン さわら中小(1.5-2kg): 128.0トン さわら小(1-1.5kg): 119.8トン さごし(0.4-1kg): 526.3トン やなぎ(0.4kg未満): 382.9トン <ブリ銘柄別> ぶり: 284.6トン まるご: 10.9トン はまち: 70.4トン つばす: 300.6トン <イカ類> ケンサキイカ(白いか): 104.8トン アオリイカ(秋いか): 101.8トン ヤリイカ(冬いか): 65.6トン ソデイカ(たるいか): 6.9トン スルメイカ: 26.3トン など
サワラ	1603.1	1398.6 (115%)	1528.4 (105%)	
ブリ	666.6	995.7 (67%)	1117.1 (60%)	
サバ類	567.5	296.8 (191%)	216.2 (262%)	
マイワシ	524.5	115.9 (453%)	550.7 (95%)	
マアジ	375.6	435.7 (86%)	861.2 (44%)	
イカ類	312.9	300.3 (104%)	345.1 (91%)	
シイラ	255.5	332.8 (77%)	221.8 (115%)	
スズキ	194.5	166.5 (117%)	144.6 (135%)	
カツオ	105.5	33.1 (318%)	110.3 (96%)	
その他	918.2	983.4 (93%)	1327.1 (69%)	
合計	7581.8	8501.4 (89%)	8686.5 (87%)	

※平年：2011-2020年

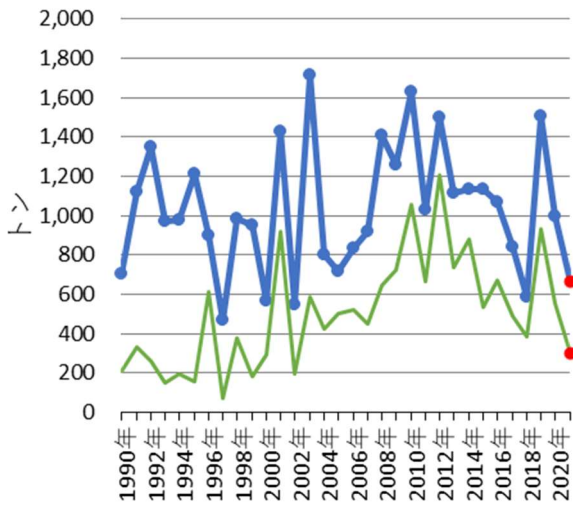
<主要魚種の漁獲量経年変化>



好調だった2020年を下回るものの、昨年では比較的高い漁獲量でした。（ただし、混じって水揚げされたカタクチイワシ以外の小魚もまとめています）

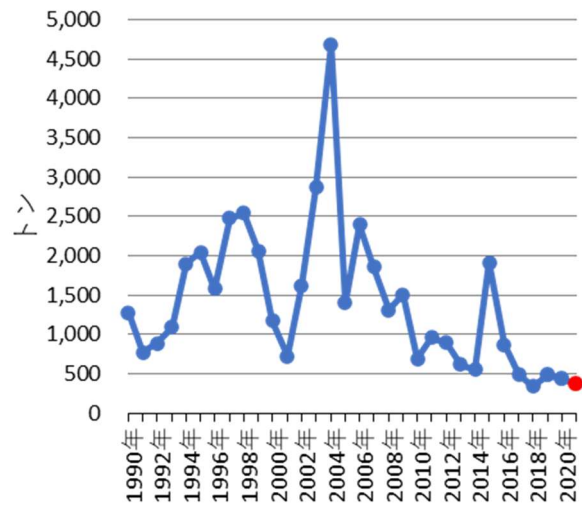
漁獲量は2000年代から急増し、現在も好調を維持しています。

ブリ（緑線はつばす銘柄）



昨年は平年を下回る結果になりました。

マアジ



漁獲量は2004年以降減少しており、昨年も平年を下回りました。

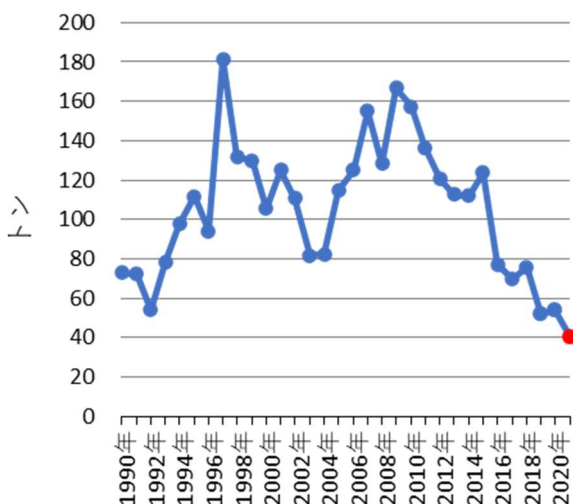
【底曳網漁業】

全体の水揚量は、平年の6割強（前年とほぼ同じ）でした。

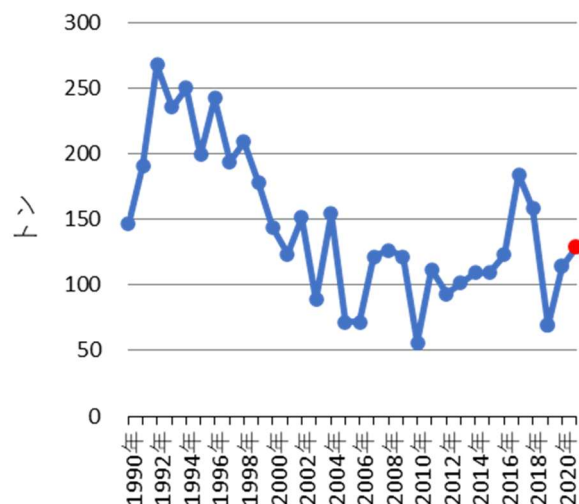
年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計					
魚種	2021年	2020年(前年比)	平年(平年比)		備考
ニギス(沖きす)	129.0	113.8 (113%)	117.4	(110%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい): 39.9トン ソウハチ(えてがれい): 14.8トン ヒレグロ(くろがれい): 5.4トン など
カレイ類	66.2	80.0 (83%)	145.8	(45%)	
ズワイガニ	50.1	45.0 (111%)	66.0	(76%)	
タイ類	13.7	15.3 (90%)	18.0	(76%)	<ズワイガニ>
アンコウ類	7.8	5.9 (132%)	13.6	(58%)	雄: 22.3トン、雌: 27.8トン
その他	43.4	58.4 (74%)	119.9	(36%)	<タイ類> キダイ(連子鯛): 9.2トン マダイ: 2.5トン
合計	310.2	318.4 (97%)	480.7	(65%)	など

<主要魚種の漁獲量経年変化>

アカガレイ（底曳網）



ニギス（底曳網）



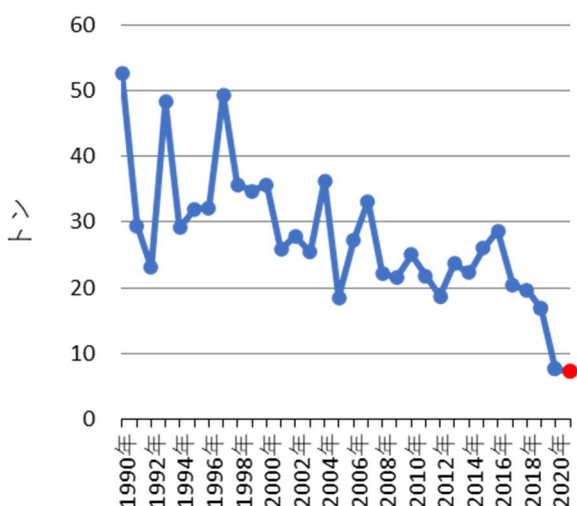
【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、平年の6割弱（前年7割）でした。

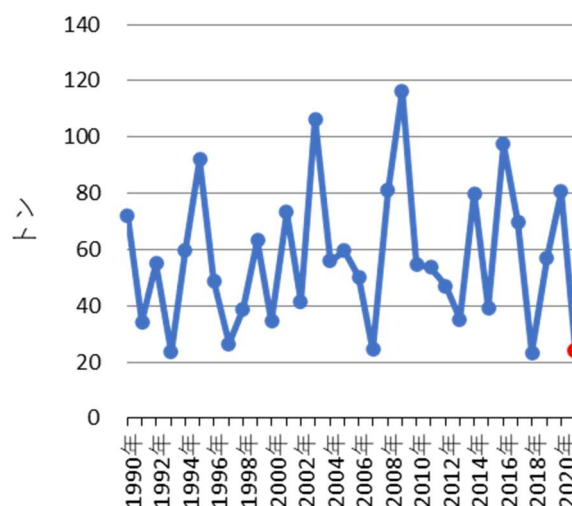
年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計					
魚種	2021年	2020年(前年比)	平年(平年比)		備考
タイ類	26.2	24.6 (106%)	33.1	(79%)	<ブリ銘柄別> ぶり: 8.4トン まるご: 11.4トン はまち: 3.7トン つばす: 0.4トン <イカ類> スルメイカ: 9.6トン ソデイカ(たるいか): 6.4トン ケンサキイカ(白いか): 2.7トン アオリイカ(秋いか): 2.0トン など
ブリ	24.0	80.7 (30%)	58.5	(41%)	
イカ類	23.7	27.5 (86%)	63.1	(38%)	
サワラ	14.9	20.4 (73%)	16.5	(91%)	
アカアマダイ(ぐじ)	12.6	12.1 (104%)	19.6	(64%)	
その他	35.6	29.9 (119%)	44.9	(79%)	
合計	137.0	195.1 (70%)	235.8	(58%)	

<主要魚種の漁獲量経年変化>

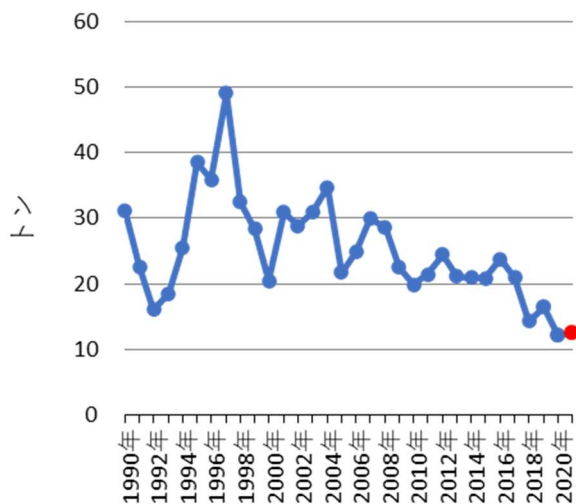
マダイ（釣り・延縄）



ブリ（釣り・延縄）



アカアマダイ（釣り・延縄）



【2021年に皆様から提供していただいた珍しい魚】

ネズミギス

8月6日 成生水産より 約27cm



本州中部以南の太平洋側、日本海に分布し、全長 30cm になります。吻（ふん）の下面にひげがあり、口が下面に開き、歯がありません。底曳網や定置網で稀に漁獲されます。

モヨウフグ

1月17日 野原水産より 約51cm



本州中部以南に分布し、全長 90cm になります。フィリピン産のモヨウフグ属では肝臓、筋肉、腸、皮膚いずれの部位も高い毒性を示し、フグ毒だけでなくしばしば麻痺性貝毒が検出されます。京都府では2009年に新井崎で幼魚が採捕されています。

オキシセミホウボウ

10月15日 栗田生産小田事業所より 約10cm



南日本に分布し、体長は 25cm になります。遊離棘と背鰭の間に 1 本の短い遊離棘があることでホシセミホウボウと区別でき、吻が短く尻鰭に黒斑がないことでセミホウボウと区別できます。観賞魚として販売されていることもあるようです。

これらの魚は京都大学舞鶴水産実験所で貴重な標本として大切に保管されています。近頃、これまで見かけなかった南方の魚が獲れる事例が増加しており、2021年に入ってから珍しい魚が届いています。見慣れない海の生き物を発見された場合には、当所までご一報いただくと幸いです。